

第 19 回「鉄道のある風景写真コンテスト」の開催のご案内 ～「都市を支える鉄道のある風景」をテーマとした新たな賞を創設します～

日本の四季折々の鉄道のある風景を題材に、昨年は 1, 122 点の応募をいただいた写真コンテストを今年も開催します。

応募作品の中から、選ばれたグランプリ受賞作品は、「鉄道の日」（10月14日）を中心に開催されるメインイベントの一つ「鉄道フェスティバル」（平成29年は10月7日～8日に東京・日比谷公園で開催。来訪者約15万人）のオープニングセレモニーの中で、審査委員長の写真家猪井貴志氏から作品のご紹介と表彰をいただいています。

特に本年は、ここ数年、地方の自然風景を対象とした応募作品が多いことから、身近な都市に関連した作品も多く応募いただけるよう、「都市を支える鉄道のある風景」をテーマとした新たな賞を創設します。

グランプリを含む入賞・入選作品は、鉄道フェスティバル会場での展示のほか、全国の鉄道関連施設での展示会等を通じて、広くご紹介していく予定です。

記

「第 19 回鉄道のある風景写真コンテスト」

主 催：「鉄道の日」実行委員会

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）

テ ー マ：日本の四季折々の「鉄道のある風景」を題材とした作品を募集します。

受付期間：平成30年7月2日（月）～8月31日（金）（必着）

受賞作品：グランプリ（国土交通大臣賞）

四季賞	春賞	四季賞の中から、鉄道の日実行委員会会長賞2点、 鉄道・運輸機構理事長賞1点、 国土交通省鉄道局長賞1点 を選出	1点
	夏賞		4点
	秋賞		
	冬賞		

都市を支える鉄道のある風景賞【仮称】 1点

ジュニア賞（※18歳以下を対象） 1点

入選 数点

審査結果発表（予定）：10月上旬鉄道・運輸機構ホームページ

添付資料 第19回鉄道のある風景写真コンテスト応募要領

第18回鉄道のある風景写真コンテスト作品集

問い合わせ先

鉄道・運輸機構 鉄道助成部

特定財源管理課 坂本・本田

電話 045-222-9133

第19回「鉄道のある風景写真コンテスト」募集要領

平成30年4月17日

主催者

「鉄道の日」実行委員会
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）



後援

国土交通省（予定）

テーマ

日本の四季折々の「鉄道のある風景」を題材とした作品を募集します。

応募受付期間

平成30年7月2日（月）～平成30年8月31日（金）必着

応募資格

・アマチュアの方で、撮影マナーをしっかり守っていただける方ならどなたでも応募できます。

応募規格

※応募規格外の写真は、審査の対象外となります。

- ・応募作品は、未発表のものに限ります。（詳細は注意事項①をお読み下さい。）
- ・カラー六切り（ワイド六切り可）、またはA4サイズでプリントアウトしたものとします。
- ・額装、合成写真及び組み写真は不可とします。
- ・概ね3年以内に撮影をしたものに限ります。
- ・応募点数は一人4点までとします。

応募方法

- ・応募作品には1点ごとに「作品情報票」を裏面にテープで貼付した上で、「応募票」（送付封筒1通毎にお一人様1枚作成）を同封して下記応募先まで郵送して下さい。（直接の持ち込みはご遠慮下さい。）なお、「作品情報票」及び「応募票」については末尾にあるものをご利用いただくかもしくは、鉄道・運輸機構ホームページ（<http://www.jrtt.go.jp>）よりダウンロードして作成してください。または自作していただいたものでも構いません。その際は必要事項を漏れなくご記入願います。
※送付中に作品が折れ曲がったり、汚れたりしないようにビニール袋に入れる、厚紙に挟む等を推奨します。

応募・問い合わせ先

〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー20階
鉄道・運輸機構 鉄道助成部内 写真コンテスト係
電話 045-222-9122

表彰

・グランプリ	国土交通大臣賞	1点
・四季賞	四季賞の中から、鉄道の日実行委員会会長賞2点、 鉄道・運輸機構理事長賞1点、 国土交通省鉄道局長賞1点 を選出	4点
・春賞		
・夏賞		
・秋賞		
・冬賞		
・都市を支える鉄道のある風景賞【仮称】		1点
・ジュニア賞 (18歳以下を対象)		1点
・入選		数点

グランプリ受賞者には、賞状、トロフィー、副賞及び記念品を贈呈いたします。

四季賞の受賞者には、賞状、副賞及び記念品を贈呈いたします。

都市を支える鉄道のある風景賞【仮称】、ジュニア賞の受賞者及び入選された方には、賞状及び記念品を贈呈いたします。

※都市を支える鉄道のある風景賞【仮称】

ここ数年、地方の自然風景を対象とした応募作品が多かったことから、身近な都市に関連した作品も多く応募いただけるよう、「都市を支える鉄道のある風景」をテーマとした新たな賞を創設します。鉄道と都市の風景の魅力が伝わる作品を選考します。

審査委員

審査委員は、次の方々をお願いします。(敬称略)

審査委員長 猪井 貴志 (写真家)

審査委員 竹内 健蔵 (東京女子大学教授)

審査委員 中村 直美 (株式会社交通新聞社 取締役第2 出版事業部長)

審査委員 国土交通省鉄道局長

審査委員 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事長

審査結果の発表

審査結果は、平成30年10月上旬ごろに、下記サイトにて発表いたします。

入賞・入選された皆様には、鉄道・運輸機構から直接ご連絡いたします。

鉄道・運輸機構ホームページ (<http://www.jrnt.go.jp>)

なお、グランプリ受賞者の方には、10月に東京で行う「鉄道の日」の行事の中で行う表彰式にお招きします。そのほか、入賞・入選作品は、各地で行う展示会への展示、作品集への掲載等で広く紹介するほか、一部作品は、鉄道・運輸機構の平成31年カレンダーなどにも利用させていただきます。

個人情報の取り扱いについて

本コンテストへ作品をご応募の際には、応募者は「応募票」「作品情報票」に正確な個人情報を記入し、主催者に提供していただく必要があります。応募者は、自らの意思に基づいて個人情報の提供についてご判断ください。なお、必要な個人情報を提供していただけない場合は、主催者は当該応募を受け付けません。

(利用目的)

◇ 提供していただく個人情報は、以下の目的で必要な範囲で利用されます。

- ・ 入賞、入選者への通知

- ・ 本コンテストの応募作品に関する応募者への問合せ
 - ・ その他、本コンテストの運営上必要な場合
- ◇ 入賞、入選者の氏名、住所（都道府県のみ）は、本コンテスト関係のウェブサイトや印刷物その他で、入賞、入選作品を紹介する際にも掲載されます。

（個人情報の管理）

個人情報の取り扱いについては、法律に従い適正に管理致します。

注意事項

- ① 応募いただく作品は、未発表で応募者が一切の著作権を有している作品に限ります。応募者による同一または類似作品は、規模の大小にかかわらず、ほかのコンテストなどに応募中または応募予定の場合は応募できません。ただし、応募者本人の制作による市販目的のない写真集や本人のホームページに掲載された作品、審査のない写真展に出品した作品は応募できます。
- ② 応募作品で使用する被写体（人物等）及び著作物等については、被写体および著作権等の権利者から応募者が事前に使用許諾・承認を得た上で応募してください。応募作品に関し第三者からの権利侵害や損害賠償などの苦情、異議申し立てがあった場合といえども、主催者は一切の責任を負わず、応募者が全て対処するものとします。
- ③ 応募作品に関する著作権は、応募者に帰属するものとします。
- ④ 入選者は主催者に対し、主催者が管理するウェブサイト、展示会、印刷物、宣伝広告物等において、入選作品を公表、表示、複製、展示、公衆送信（送信可能化を含みます）、頒布等し、かつ、それらの全部または一部を第三者に再許諾することができる無償の非独占的権利を許諾するものとします。
- ⑤ 主催者は、前項に関連して、入選作品の全部または一部を改変（色合いの変更含みます。）できるものとします。
- ⑥ 入選者は、主催者および主催者から許諾を受けた第三者に対し、著作人人格権を行使しないものとします。
- ⑦ 応募作品は返却いたしませんのでご了承ください。
- ⑧ 入賞・入選内定者は、指定期限内に原板（ネガ・ポジ等）またはデジタルデータをご提出していただきます。指定期限内にご提出いただけない場合には、入賞・入選の内定を取り消します。
- ⑨ ご提出いただいた原板（ネガ・ポジ等）については、使用後にお返しいたします。
- ⑩ 応募作品の受領通知は行いませんので、ご了承下さい。
- ⑪ 応募作品（入賞・入選作品に関してはご提出いただいた原板及びデジタルデータも含む。）の取り扱いには十分注意いたしますが、万一応募作品に関する損失、紛失等事故（送付中の事故も含む。）が生じた場合であっても責任は負いかねます。
- ⑫ 審査選考に関するお問合せ及びご要望には応じかねます。
- ⑬ 撮影にあたっては、列車往来などに十分注意した上で行ってください。鉄道用地・私有地への無断の立ち入りや違法駐車、ゴミの投棄などの近隣住民への迷惑行為及び危険行為は絶対に行わないで下さい。これらの行為のうえ撮られたと思われる作品は審査対象外とします。また、撮影に起因する事故やトラブル等、主催者は一切の責任を負いかねます。
- ⑭ 主催者は、応募者が応募した時点で本募集要領に記載されている諸条件に同意したものとみなします。本募集要領に明記されていない事項については、主催者が最終的な決定権をもつものとします。その際、主催者の決定に同意できない場合は、応募者はご応募を撤回することができます。なお、ご応募の撤回にともなう費用は、すべて応募者の負担となります。
- ⑮ ご応募が本募集要領に違反すると主催者が判断した場合は失格となります。また、入賞・入選決定後に違反が判明した場合も同様となり、入賞・入選の取り消しや賞品等を返還していただく場合があります。この場合の費用は、すべて応募者の負担となります。

第18回

鉄道のある風景写真コンテスト 作品集

鉄道の魅力のひとつは、我が国に初めて鉄道が出現した時から、乗客の思いを運ぶことにあります。暮らしの中の鉄道であれ、旅列車であれ、それは時代を経た今も変わらぬ本質なのです。そして時は流れ、美しい日本の風景を舞台に、蒸気機関車が復活しました。各地で観光列車として走る蒸気機関車に、現役時代を知る人には懐かしく、初めて見る人には新しい乗り物として映り、老若男女様々な乗客の思いを乗せて楽しませてくれています。

あわただしい日常の中ではなかなか持ちにくい時間ですが、だからこそぼんやりと蒸気機関車に揺られる旅にでてみたい。旅に出たら「感じ」たい。目の前に広がる風景を楽しみながら、蒸気機関車が運んでくる汽笛の音を、煙の匂いを身体で感じることで、旅を豊かにしてくれると信じてやまないからです。

写真家 猪井 貴志

グランプリ 国土交通大臣賞 市村 一男(神奈川県)



『白い閃光』

(東日本旅客鉄道 小海線 小淵沢駅～甲斐小泉駅)

撮影者のコメント

「残雪が残る山脈に閃光が走った光景が、とても神々しく感じました。」

総 評

第18回「鉄道のある風景写真コンテスト」。今年も日本全国からたくさんの力作が集まりました。回を重ねるたび、あらためて日本の美しさにふれることができ、審査員一同感服しております。

鉄道風景写真では、「鉄道」と「風景」どちらも主役や脇役を演じることができるのです。まずは、「撮ってみたい」と目指す撮影地に着いたらカメラをセットする前に、その場の風や音、匂いを五感で感じることです。その上で主役をどう表現するか、心を動かされる理由が必ず見つかるはず。大切なのは、その風景の中に「いいな」と感じた主役をいかに引き立たせるかがポイントなのです。「構図」はハカリのようなものです。主役と脇役をそれぞれ左右・上下にバランスをとり、差し込む光が照らし出す鮮やかな舞台に、四季の彩りを添えれば一服の作品が完成することでしょう。現場の状況をよく観察することです。

今回もたくさんの力作を拝見させていただきました。以前も第12回の総評で「応募作品が色のコントラストと彩度が強くなりすぎる」と記させていただきました。目指す撮影地で一喜一憂しながら「撮った」と確かな手応えのある作品も、最後の仕上げのプリントでつまずいたらもったいないことです。最後の仕上げまで自身の作品を大切にしてください。撮った写真はプリントされて初めて作品として鑑賞できるのです。

第18回「グランプリ」に輝いた市村一男さんの作品「白い閃光」。雄大な山なみと高原の清明な空気感が、折り重なる峰からそよぐ季節の風にのり、まさに五感を揺さぶられるような迫力のある作品になりました。

写真家 猪井 貴志

春賞 阿部 健樹(愛媛県)



『爽春の光』

(四国旅客鉄道 予土線 真土駅～西ヶ方駅)

撮影者のコメント

「眩い光と緑。軽快に駆け抜ける新幹線。爽やかなシーンとの出逢いでした。」

夏賞 石井 道之(富山県)



『雲上の渓谷』

(東日本旅客鉄道 只見線 会津西方駅～会津松原駅)

撮影者のコメント

「丁度良いくらいに川霧が湧き上がり、神秘的な写真を撮ることができました。」

秋賞 山本 喜久夫(千葉県)



『初雪』

(北海道旅客鉄道 富良野線 美馬牛駅～美瑛駅)

撮影者のコメント

「紅葉を撮影に行ったのですが、予期せぬ雪に恵まれました。まさに一期一会の瞬間でした。」

冬賞 伊藤 洋(長野県)



『旅立ち』

(北海道旅客鉄道 釧網本線 北浜駅)

撮影者のコメント

「朝の逆光の中、一番列車の煙が光ることをイメージしましたが、オレンジ色の世界の中で想像以上に雪煙が舞い上がり、とても興奮しながらシャッターを切りました。」

入選 月山 榮敏(千葉県)



『雪解け水の飛沫』

(東日本旅客鉄道 磐越西線 喜多方駅～山都駅)

撮影者のコメント

「残雪のある山々から流れる雪解け水が、三段に連なる堰を流れ落ちる姿を撮ってみました。水量が多く勢いを感じました。」

入選 大嶋 朋子(東京都)



『夢幻情景』

(東日本旅客鉄道 磐越西線 津川駅～三川駅)

撮影者のコメント

「川面を覆っていた霧が上がり、空が割れたその隙間から西日が射し込む。川面がキラキラと黄金色に輝く夢のような夕暮れ。その場にいられた事が幸せでした。」

入選 土屋 直樹(神奈川県)



『アジサイ電車』

(箱根登山鉄道 箱根登山電車 箱根湯本駅～塔ノ沢駅)

撮影者のコメント

「登山電車と紫陽花を絡めた構図で撮るつもりでしたが、車両の窓に紫陽花が反射し映っている事に気づき撮り方を変えてみました。」

入選 斎藤 敏範(福島県)



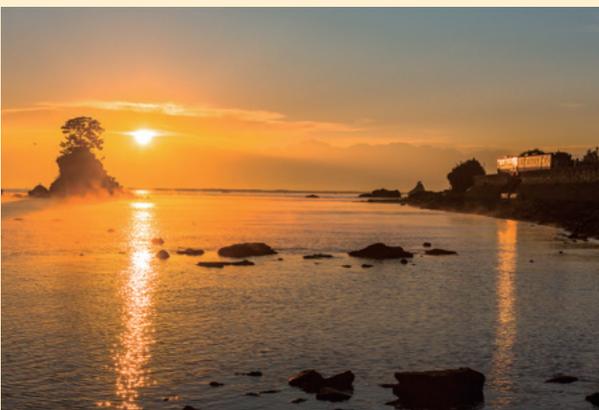
『大空を往く』

(東日本旅客鉄道 磐越西線 喜多方駅～山都駅)

撮影者のコメント

「澄んだ青空にいい雲が浮かび、あとは列車の通過を待つだけでした。定刻通りにガッタンゴットンと来た時は感激でした。平日でSL運行がなく、周囲で誰も撮影してない幸運の一枚です。」

入選 上田 邦男(富山県)



『けあらしの朝』

(西日本旅客鉄道 氷見線 雨晴駅～越中国分駅)

撮影者のコメント

「けあらしが出た朝、朝日に輝く列車がきれいと感じました。」

入選 栗原 正隆(大阪府)



『鱗雲いっぱい』

(近畿日本鉄道 道明寺線 柏原南口駅～道明寺駅)

撮影者のコメント

「鱗雲いっぱいの空も『乙女心と秋の空』の例え通り、変化するのも速く、次第に雲同士がつながって境目がなくなっていました。」

入選 山本 学(北海道)



『駅 STATION』

(北海道旅客鉄道 留萌本線 増毛駅)

撮影者のコメント

「雪の宵、港町の終着駅に
列車がやって来た。」

入選 袴田 啓志(静岡県)



『初冬の茶園を走るSL』

(大井川鐵道 大井川本線 家山駅～抜里駅)

撮影者のコメント

「茶園とSLのコントラストに
配慮しました。」

ジュニア賞 青宿 月翔(埼玉県)



『紅葉』

(東日本旅客鉄道 飯山線 森宮野原駅～横倉駅)

撮影者のコメント

「紅葉とSLを一緒に入れることをメインにしました。
2時間待ち続けた甲斐がありました。」

(敬称は略させていただきました)

第18回 鉄道のある風景写真コンテストの概要

主催 「鉄道の日」実行委員会／鉄道・運輸機構
後援 国土交通省
募集期間 平成29年7月3日(月)～平成29年8月31日(木)
審査 平成29年9月7日(木)午後 鉄道・運輸機構にて開催
応募数 1,122点 (応募者数：393名)

写真の審査は、次の方々をお願いいたしました。(敬称略)
審査委員長 写真家 猪井 貴志
審査委員 ㈱交通新聞社取締役第2出版事業部長 中村 直美
東京女子大学教授 竹内 健蔵
国土交通省鉄道局長 藤井 直樹
鉄道・運輸機構理事長 北村 隆志

受賞・入選
作品の展示

平成29年10月7日(土)～8日(日)

第24回鉄道フェスティバル会場(東京・日比谷公園)

平成29年11月22日(水)～12月6日(水)

つくばエクスプレス浅草駅

第19回は、平成30年春に募集案内を告知する予定です。
応募要領は、鉄道・運輸機構のホームページをご覧ください。



明日を担う交通ネットワークづくりに貢献します。

鉄道・運輸機構

Japan Railway Construction, Transport and Technology Agency

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 (横浜アイランドタワー)

TEL 045 (222) 9100 (代表)

URL <http://www.jrtt.go.jp/>